

KYUSHU UNIVERSITY

理 学 部 便 り

創刊号  
2003/6月



【特集】 **大学院の再編と理学部の組織**  
各学科の現況

NEWS

川崎恭治名誉教授のボルツマン賞受賞  
21世紀COEプログラム「統合生命科学」

施設紹介

九州大学総合研究博物館

同窓生通信の  
記事募集  
(詳細は最終ページ)



## 理学部便り創刊にあたって

大学はいま、設立の理念を根幹から変える激動の時を迎えています。これまで大学、学部、学科だけでなく講座の内容も法律で定められ、その枠の中で高等教育の提供、社会に役立つ研究の推進という国民の付託に応じてきました。平成16年度に導入が検討されています国立大学の独立行政法人化が行われますと、大学設置の理念は大学自身で掲げることが必要となります。

この変革の時に当たり、理学部では1. 知の継承と創造、2. 人材育成、3. 社会的責務、4. 学問の自由と自律という4項からなる規範を定め、九州大学の基礎科学教育・研究の中心部局として、この規範にしたがって、理学の教育と研究を推進する決意を新たに致しました。

われわれのこの使命は、学生・院生、教員、事務員が一体となって初めて遂行できるものです。また社会的責務を果たすためには、社会との連携が不可欠であり、理学部の同窓生の方々とも情報を共有することが緊要であると考えております。理学部では、各学科で行われている活動や成果に関する

情報を交換し、またそれを社会へ発信していく場を提供する一助として、理学部便りを発刊することにいたしました。

今世紀、われわれは環境問題、エネルギー問題、人口問題など多くの難しい課題を解決しなければなりません。その中で理学の果たす役割は、ますます重要になるものと考えられます。この理学部だよりを通して、多様な研究の学際的な融合が図られ、人類の抱える課題に果敢に取り組む新しい息吹が生まれることもわれわれの期待するところです。

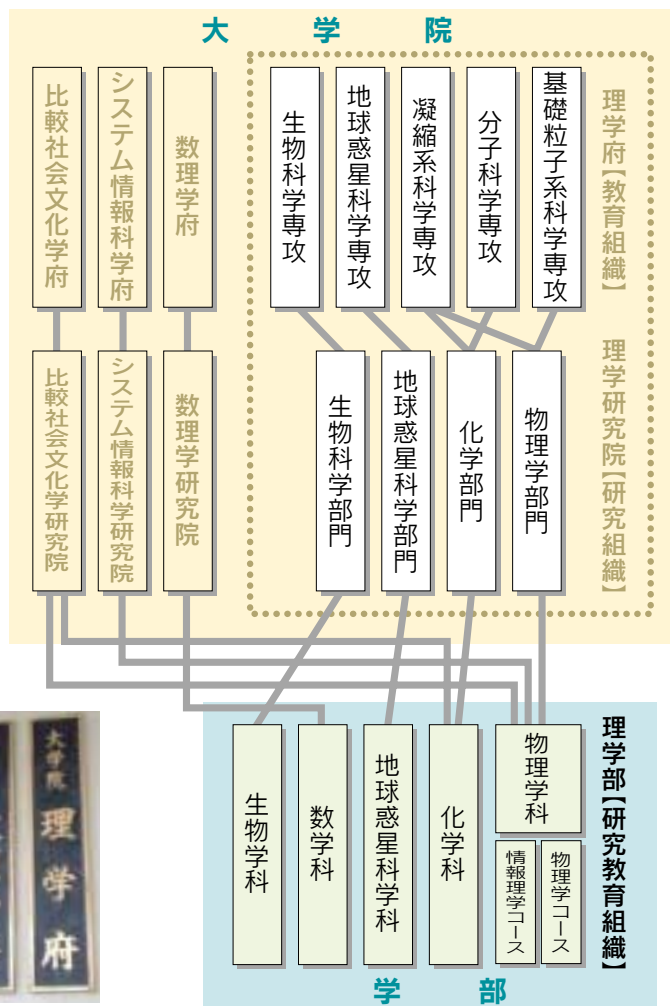


理学部長  
小田垣 孝

## 大学院の再編と理学部等の組織

九州大学では大学院重点化によって教官の所属を従来の学部から大学院に移した。平成12年4月には、全学部の大学院重点化の完成とともに、全国でも初めての大学院の「学府・研究院」制度を導入した。この制度の特徴は、大学院を教育組織と研究組織とに分離することにより、各研究院の枠を越えて学府と学部の教育に多様に対応できることである。さらに、将来において教育・研究双方の組織をそれぞれの必要に応じて独立に再編することもできる。

理学部では、大学院重点化と教養部廃止の過程で、数学科が理学部外の数学系の講座等と統合して、平成6年度に大学院数理学研究科として独立したが、学部教育のための数学科は理学部に配置された。教養部の廃止に際しては教官の分属により、理学部の各学科とも講座の増設や教官の増員があった。その後、平成11年度には、大学院重点化により、理学部の教官は大学院理学研究科に属することになったが、平成12年度には、大学院理学研究科の「理学府」と「理学研究院」への分離に伴い、理学研究院所属となった。



## 物理学科の近況

物理学科は平成6年の教養部廃止、平成10年の理学研究科の重点化、その際の「情報理学コース」の設置、さらに平成12年度の「研究院」制度の導入によって、過去10年足らずの間に大きく変わってきた。また、平成16年度に迫っている「独立行政法人化」への対応も現在進んでいる。

物理の教官は「物理学部門」に所属している。これまでの大学院は(理学研究科から)「理学府」とよばれる教育組織となり、物理学関係の専攻は「基礎粒子系科学専攻」と「凝縮系科学専攻(物理学コース)」にまたがっている。また、「理学部」の「物理学科」に入学した学生は、入学から1年半後に志望に従って、「物理学コース」と「情報理学コース」に分かれることになっている。「物理学コース」は従来の物理学科であり、「情報理学コース」は、新しい基礎科学としての情報科学を教育することを目的としてシステム情報科学研究院の教官によって教えられている。

大学院重点化の際に、化学科も含めて「自然の階層性」という観点に立った講座の構成を考えることになった。ミクロな世界の法則を探求する素粒子、原子核の世界から、マクロな多体系としての(特に極限環境下での)物質の世界へ。そして広大な宇宙はまた、ミクロな世界と密接な関係を持っている。こうした階層性を反映するように、下表のような講座が現在置かれている。

1999年に井上研三教授が「超対称標準理論における電弱対称性の量子的破れ」で仁科記念賞を受賞されたのに続き、2001年には川崎恭治名誉教授が1977年の久保亮五氏に続き日本人二人目となるボルツマン賞の受賞と、物理教室ではうれしいニュースが続いた<sup>\*1</sup>。また、教室内では世代交代が進行中で、下の表にあるように、ナノ物性やソフトマテリアルといった新しい分野の方が加わった。現在は「21世紀COE」への対応や、平成19年20年に予定されている理学系のキャンパス移転の準備が忙しい。

物理教室の最新のニュースや、より詳しい研究内容、連絡先についてはホームページ(<http://www.phys.kyushu-u.ac.jp>)をごらん下さい。

※1)仁科記念賞は仁科記念財団から原子物理学とその応用の研究に極めて優秀な成果を取めた研究者に対して贈られる賞。ボルツマン賞はIUPAPから統計物理学において顕著な功績のある研究者に贈られる賞。

基礎粒子系	(研究内容)
粒子宇宙論	素粒子理論, 原子核理論, 宇宙物理
粒子物理学	実験核物理学
多体系基礎論	多体理論, 極限物性実験, 低次元磁性実験, 構造解析, 生体高分子

凝縮系	(研究内容)
凝縮系基礎論	物性理論, 統計物理学
複雑系科学	ソフトマテリアル, 複雑液体, 低温物理学
量子物性科学	ナノ物性, 超伝導, 固体表面

## 川崎恭治名誉教授の ボルツマン賞受賞の



IUPAP(International Union of Pure and Applied Physics)は3年に一度統計物理学において顕著な功績のある研究者に対してボルツマン賞を与えており、第1回目(1975年)のウィルソン(K.G.Wilson)から数えて10回目の2001年にB.Adler氏と共に本学名誉教授の川崎恭治氏が受賞された。日本人の受賞は1977年の久保亮五氏について2人目である。川崎氏の最も大きな業績は臨界点近傍での流体に対する「モード結合理論」であり、ボルツマン賞もその受賞理由に先ずこれを挙げています。その他にも「川崎ダイナミクス」の名で知られる全磁化量が保存する動的イジングモデル、せん断流下での2成分流体の相分離など、多くの特筆すべき研究業績がある。川崎氏は九州大学大学院の出身であり、また、助教授、教授として物理教室で研究、教育に長年にわたり従事された。川崎研の助手、学生で現在第一線で活躍されている研究者も多い。

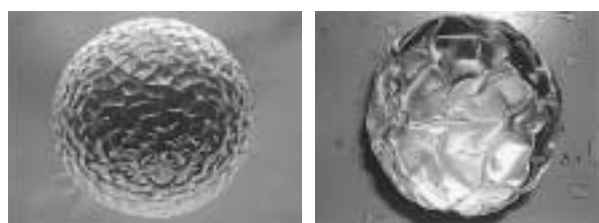
### [ミニ研究情報]

#### 球状ゲルの膨潤過程で観察される表面パターン

調整した状態から平衡膨潤状態まで体積は40倍以上にもなる。



調整した状態と平衡膨張状態 30分後



2時間30分後 20時間後

(提供: 鶴田教授)

## 化学教室の講座の変遷

平成12年4月の九州大学の大学院重点化の完成とともに、大学院の組織として理学府と理学研究院が創設されました。理学府は、大学院の教育組織で大学院生が所属しています。化学教室の教官は理学研究院の化学部門に所属しています。このように組織が複雑になったことと、昔の講座が公式にはなくなったが現実には昔の講座の形態で研究教育が行われていることにより、化学教室の現在の様子を正確に表現するのは難しいのですが、ここでは、理学府の区分を基にし、その中に理学研究院化学部門と理学部の組織を埋め込んだ形で現在の化学教室の陣容を説明します。

化学の大学院生の所属する理学府には、分子科学専攻と凝縮系科学専攻の2つがあります。このうち凝縮系科学専攻は物理の大学院生の半分が所属する組織でもあります。それぞれの専攻は下の表のようにさらに大きく4つに分かれています。例えば分子科学専攻には、有機化学系、物理化学系、生物化学系、物質変換化学(協立講座)の4つがあります。これらの名称は教官の所属する大講座に当たります。更に細かく見ると、例えば有機化学系では3つに分かれています。ここで、「専門」の行は大学院での専攻の名称で、「研究室」の行は学部4年生の所属する研究室の名称に相当します。同じ列にある「専門」と「研究室」が実質的に同じ講座にあり、「研究室」の名称に昔の講座名を留めているところが多いので昔のどの講座に相当するかが容易に推測できます。この中で若干名称の変更がありました。集合系無機化学の錯体化学は昔の錯塩化学で、コロイド化学は昔の高分子化学です。物性有機化学、分子動態化学、無機反応化学については、少し説明が必要です。平成6年3月の教養部の廃止に伴い、6月に

六本松地区に分子設計化学と分子動態化学の2つの大講座が生まれました。その後、分子設計化学は物性有機化学と名称を変更し現在に至っています。この間、平成13年5月に無機反応化学が新たに発足しています。物性有機化学と無機反応化学は、それぞれ講座に相当していますが、分子動態化学は、その「専門」の名称(計算化学、反応分析化学、非平衡系化学)が講座に相当しています。昔の物性化学講座は、平成5年4月の有機化学基礎研究センター発足の基になった為、現在ではありませんが、有機化学基礎研究センターに化学科の学部4年生も所属しているため、表の「研究室」の行には物性化学の名称が残っています。なお、有機化学基礎研究センターは、平成15年4月より、機能物質科学研究所と統合し、先導物質化学研究所となりました。

化学教室の最新のニュースや各研究室の近況については下記のホームページをご覧ください。

<http://www.scc.kyushu-u.ac.jp>



学部3年生の学生実験風景

### 分子科学専攻

有機化学系			
専門	構造有機化学	有機反応化学	物性有機化学
研究室	有機化学	有機反応化学	物性有機化学

物理化学系			
専門	構造化学	量子化学	計算化学
研究室	構造化学	量子化学	分子動態化学

生物化学系			
専門	構造機能生化学	生体情報化学	
研究室	生物化学	酵素化学	

(先導物質化学研究所) 物質変換化学			
専門	物質変換化学		
研究室	物性化学		

### 凝縮系科学専攻(化学コース)

集合系無機化学			
専門	無機化学	錯体化学	無機反応化学
研究室	無機化学	錯体化学	無機反応化学

集合系分子化学			
専門	溶液錯体化学	状態解析化学	反応分析化学
研究室	分析化学	放射化学	分子動態化学

集合系物理化学			
専門	界面物理化学	分散系物理化学	非平衡系化学
研究室	物理化学	コロイド化学	分子動態化学

(先導物質化学研究所) 物質変換化学			
専門	物理有機化学		
研究室	物性化学		

# 地球惑星科学教室の変遷と近況

「人類の生活する地球, その過去・現在・未来の姿を探る」これは固体地球のみならず、それを取り巻く海洋・大気圏、電磁気圏、宇宙をも含めた自然科学の尽きざる課題です。このテーマに多角的に知見を深めるべく、全国に先駆けて地球科学の諸分野を統合して本部門の母体となる地球惑星科学科が九州大学理学部に生まれたのは平成2年度のことです。その後、大学院重点化に伴い従来の小講座制から大講座制へ移行し、それまでの小講座は研究分野として存続しました。そして学府・研究院制度導入後、平成15年度より、地球惑星科学部門は「流体圏・宇宙圏科学」「固体地球惑星科学」「太陽惑星系物質科学」「地震学・火山学」「地球惑星博物学」の5大講座・16分野へと改編しました。その間、講座・研究分野名は随時変更してきました。

地球をはじめとする惑星、そして太陽系全体の現状や生い立ち・仕組みを解明し、地球-太陽系システムに生起するダイナミックな諸現象の関わりを理解することが地球惑星科学の目的です。近年は地球環境保全の問題が国際的に重要視されており、特に地球と地球を取り巻く環境に注目が集まっています。本部門はこのような疑問・問題に基礎科学の面から取り組みつつ、多元的・学際的な研究体制を維持・発展させています。同時に、時代の要請に応じて様々な問題を解決する能力や未知の分野について独創的な研究を進める能力を開発する教育を行っています。今後はさらに東アジアにおける中心的研究機関とし

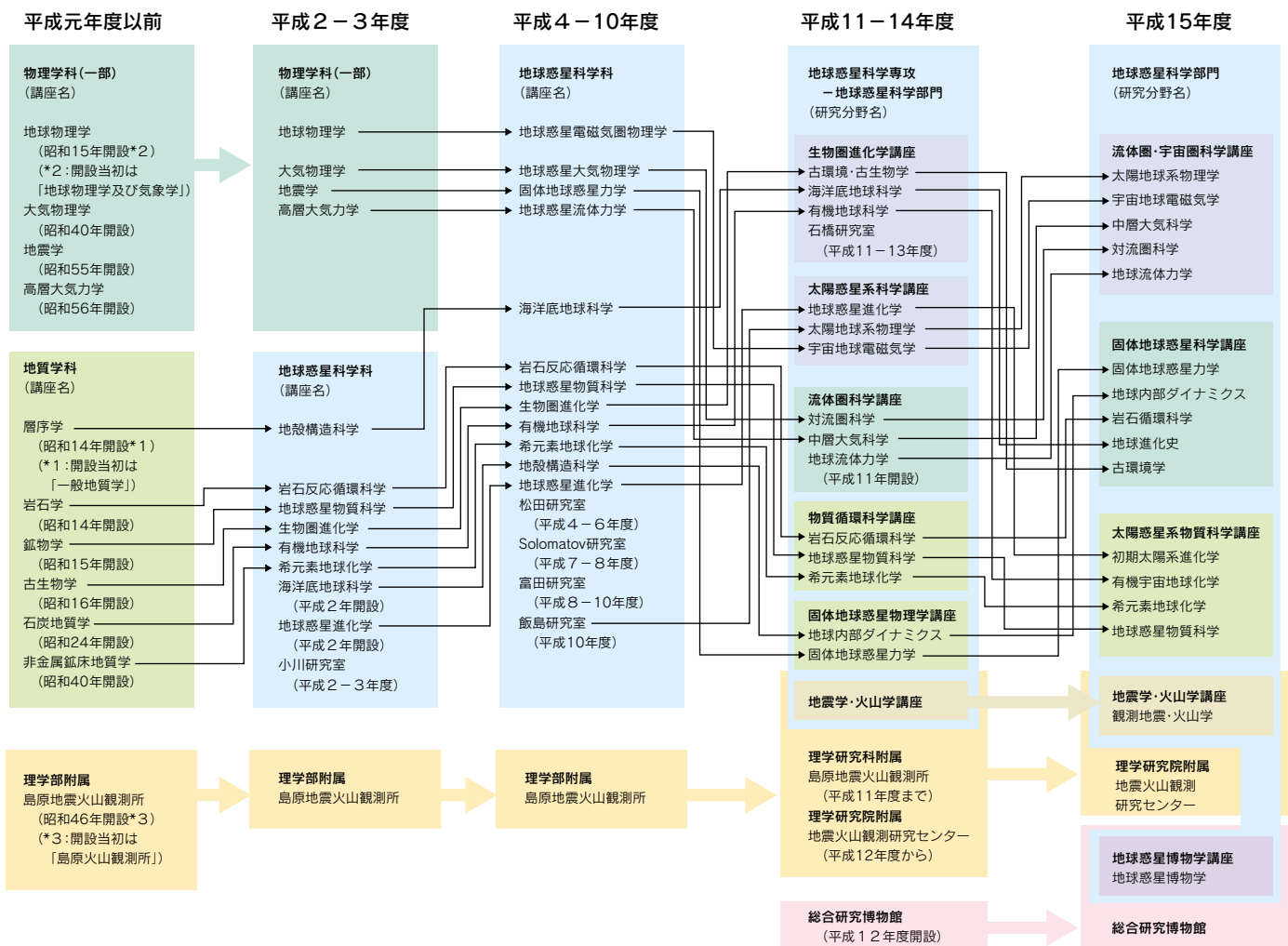
てこの地域的特性を活かし、数値シミュレーションや室内実験を駆使して、グローバルで地球史的時間スケールの諸問題に取り組んでいきます。

地球惑星科学教室のホームページ(下記アドレス)もご覧下さい。

<http://www.geo.kyushu-u.ac.jp/>



紫煤: 2.7億年前の木材(樹の原型を残した石炭)  
中国山東工業学院からの国際交流協定記念品



## 数学科の現状

当数学科の歴史は、明治44年の九州帝国大学工学部に設置された「数学及び力学1講座」にまで遡ります。その後、昭和17年に「理学部数学科」が開設、昭和28年の「大学院理学研究科数学専攻」の新設を経て、平成6年には独立大学院研究科である「大学院数理学研究科」に移行し、更に平成12年にこの数理学研究科は研究組織である「大学院数理学研究院」と教育組織の「大学院数理学府」に分かれ、今日に至っています。

ではその組織の中身ですが、現在の数理学府には8つの大講座(代数構造・空間構造・関数構造・離散構造・数理システム・非線形数理・計算数理・社会数理)と1つの客員講座があり、約80名の教官がこれらの講座に所属して、数学の純粋理論から最先端の応用数理に至るまで幅広い分野において研究・教育活動を行なっています。そして本学府には修士課程(定員56名)と博士課程(定員35名)が置かれており、修士課程の入学者選抜は純粋数学の研究・教育をめざす「数学コース」とその応用に力点を置いた「数理学コース」に分かれて実施され、各コースで特徴のある選抜試験が行なわれています。

さて、話を学部に戻しますと、数学科に入学した学生はまず最初の1年半は主に六本松キャンパスにおいて全学共通教育科目を受けますが、この中にはもちろん微分積分学や線形代数学も含まれています。更にこの間、彼らには「箱崎日」と呼ばれる日が週に1日設定されており、この日には箱崎キャンパスにおいて「数学入門・演習」や「数学概論・演習」などの科目を受講し、集合論の初歩やイプシロン・デルタ論法など、その後の数学学習の基礎になる訓練を積みまします。そしていよいよ2年生の後期からは箱崎キャンパスにおいて専門科目を学ぶわけですが、例えば3年生の前期には「代数学B・演習(環論)」、「幾何学B・演習(曲線・曲面論)」、「解析学B1・演習(複素関数論続論)」、「解析学B2・演習(ルベーグ積分論)」、「情報数学B・演習(計算機科学)」がその授業科目として開講されています。これらの講義はたいいて午前10時半から12時までであり、そのあと1時間の昼休みをはさんで午後の1時から3時半までは午前中の講義内容に対応した演習の時間が続きます。演習は2クラスに分かれてきめ細かく濃い密度で行なわれ、数多くの演習問題に取り組むことによって講義で学んだ内容の理解を深めていきます。また、3年生後期になると「セミナー」が始まります。そこでは学生が少人数ごとに複数の教官の下に分かれ、各教官の提示したテキスト等を読んでその内容をセミナー参加者の前で発表するという作業を通して、より進んだ数学のトピックスについて学ぶことができます。このセミナーは4年生の終わりまで続き、そして(無事に単位が揃っていれば)めでたく卒業となるわけです。

いかがです?皆さんの学生時代と較べて随分と様変わりしましたか?

各スタッフの研究指導内容やセミナーの紹介など、数理学研究院や数学科に関するより詳しい情報を、<http://www.math.kyushu-u.ac.jp/>に掲載してありますので、是非一度御覧になってみて下さい。

## 生物学科 Department of Biology

近年の生物科学は、分子から細胞、組織、個体、そして集団に至るあらゆるレベルにおいて長足の進歩を遂げつつある。この進歩は、生化学および分子生物学、分子レベルから集団レベルに至る遺伝学と進化学、一分子から細胞そして個体に至る様々なレベルの生理学、個体間の相互作用を扱う生態学、そして情報・数理学など関係諸学の飛躍的な発展を背景とした研究手法の高度化に支えられており、時流はまさに生物を対象とした総合自然科学の樹立を目指さんばかりの情勢である。

本部門では生理活性物質や遺伝子・タンパク質、細胞小器官、細胞、器官、個体、さらに生物集団を対象として様々な生命現象を解明するための教育研究を行っている。対象となっている生物を挙げるだけでも、哺乳類(ヒトやネズミなど)、両生類(カエル)、無脊椎動物(昆虫を含む節足動物や線虫など)、植物(イネやアサガオなど)、海洋生物、酵母、細菌など実に多様であり、それらの対象を研究するための手法も先に述べたように多岐にわたっている。そのため、研究室における実験、フィールドワーク、理論的解析や計算機を用いた解析など、広範な教育を行う体制を持っている。

講座	研究室	教授	助教授	助手
動態生物学	動物生理学	藤 義博	市川 敏夫	岡田 二郎 山脇 兆史
	生態科学	矢原 徹一	粕谷 英一	土肥 昭夫 江口 和洋
	数理生物学	巖佐 庸	佐々木 顕	武田 裕彦
情報生物学	細胞機能学 (六本松地区)	島崎 研一郎 館田 英典	谷村 禎一 小早川 義尚	木下 俊則
	発生生物学	佐方 功幸	野村 一也	中條 信成
	植物生理学	射場 厚	荒田 博行	梶見 健介 松田 修
	分子遺伝学	大島 靖美	古賀 誠人	藤原 学
統合生物学	代謝生理学	藤木 幸夫	田村 茂彦	原野 友之
	分子集団遺伝学	釣本 俊樹	Alfred E. Szmidt	仁田坂 英二 猪股 伸幸
	生体物理化学	杉山 博之	伊藤 功	
海洋生物学	生体高分子学	太和田 勝久	川畑 俊一郎	江本 由美子 今福 泰浩
	臨海実験所	渡慶次 睦範	野島 哲	森 敬介

### 21世紀COEプログラムに「統合生命科学」が採択される

21世紀COEプログラムは「我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を学問分野ごとに形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進すること」を目的として文部科学省が平成14年度から開始した事業である。

平成14年度は生命科学分野で112の応募があり、28件が採択された。生物科学部門では藤木幸夫教授を拠点リーダーとして、生体防御研究所の一部、医学系研究科分子生命科学系専攻と共同で申請した「統合生命科学」が採択された。生物科学部門ではプログラムの趣旨に沿った研究教育体制の構築を目指している。

## 施設紹介

# 九州大学総合研究博物館

平成9、10、11年の初夏に、九州大学における優れた研究の「過去・現在・未来」の姿を社会に発信し還元する目的で3回の先行展示が開催され、その後、平成12年4月に九州大学に「九州大学総合研究博物館」が設立されました。以来、九州大学総合研究博物館では、九州大学の研究成果を学外および学内多部署の人々にわかりやすく展示・紹介しています。公開展示では、知識の普及を行うとともに、大学の活動への社会の理解を深めることを目指し、学外の会場で展示を行い、同内容を学内でも展示しています。特別展示では九州大学所蔵の学術標本や研究・教育の成果を学内で紹介しています。これらの展示には理学研究院の各部門の方々も携わっております。今後の博物館活動にご期待ください。

開館以来の公開展示・特別展示そして先行展示の概要は次の通りです。

## 公開展示

第一回：『森・水・人』—「学術の森」による森林生態圏科学—

会期：2000年5月16日～6月4日 於：福岡市博物館（農学部附属演習林と共催）

第二回：『石炭・金・地熱』—九州の地下資源—

会期：2001年12月18日～2002年1月27日 於：福岡市博物館（工学研究院地球資源システム工学と共催）

第三回：『植物をもっと知ろう』—植物と人—

会期：2002年8月16日～9月8日 於：福岡市立少年科学文化会館（農学研究院植物資源科学部門、理学研究院生物科学部門、薬学研究院創薬科学部門、熱帯農学研究センター・生物環境調節センター・遺伝子資源研究センターと共催）

2003年度には水産学関係、2004年度には考古学関係の公開展示を予定しています。

## 特別展示

『昆虫展：進化の舞台の主演と脇役』—地球上で繁栄する多様な昆虫たち、人とのかかわり—

会期：2001年3月16日～5月18日 於：九州大学五十周年記念講堂3階（理学研究院生物科学部門ほかと共催）

『地球惑星科学への招待』—地球の過去・現在・未来を見つめて—

会期：2001年7月16日～9月14日 於：九州大学五十周年記念講堂2・3階（理学研究院地球惑星科学部門・理学研究院附属地震火山観測研究センターほかと共催）

『九州大学教育・研究の最前線』—第1回P&P研究成果一般公開—

会期：2002年5月8日～6月7日 於：九州大学五十周年記念講堂2・3階（理学研究院化学部門・理学研究院物理学部門ほかと共催）

## 先行展示

『倭人の形成』—九州大学古人骨資料から見た日本人の形成—

会期：1997年6月7日～6月29日 於：福岡市博物館（主催：比較社会文化研究科）

『雲仙普賢岳の噴火とその背景』

会期：1998年6月11日～6月29日 於：アクロス福岡（主催：理学部地球惑星科学科・島原地震火山観測所）

『九州大学・医学の歩み—寄生虫学の展開と医の文化』

会期：1999年6月22日～7月11日 於：福岡市博物館（主催：医学系研究科病態医学専攻・比較社会文化研究院）

展示の内容や組織などについての詳細は、ホームページ、

<http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>

/INFORMATION/infomai.html

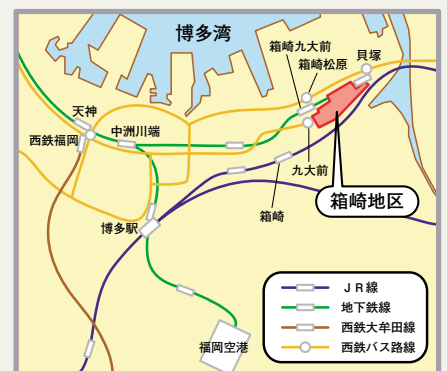
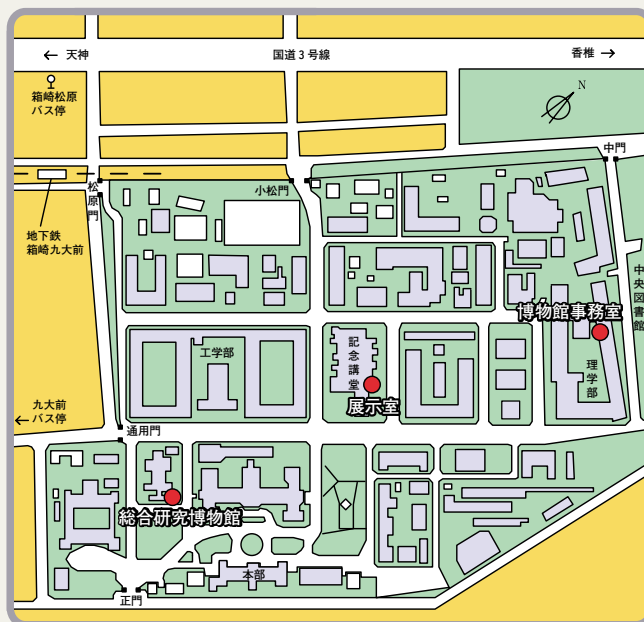
をご覧ください。



↑熱心に説明する展示者と、その説明を集中して聴く来館者の様子



↑常設展示されている所属標本を見学に来たユネスコ職員



## ■最寄りの交通機関

- JR博多駅→地下鉄中洲川端乗換（貝塚行）→箱崎九大前下車
- 福岡空港→地下鉄中洲川端乗換（貝塚行）→箱崎九大前下車
- 西鉄バス10番系統→九大前下車  
西鉄バス29番系統→箱崎松原下車
- タクシーは、JR博多駅から約15分、空港から約20分
- お車の方は、国道3号線側「小松門」のみ通行可能（一時入構手続きが必要）

# 九州大学国際研究交流プラザご案内



九州大学創立80周年記念事業の一環として建設  
 場所:〒814-0002福岡市早良区西新二丁目16番  
 開館:年末年始(12月28日～翌年1月4日)を除く  
 毎日開館

利用対象:九州大学関係者および一般市民  
 (ただし、一般市民の場合は、九州大学の教職員が  
 紹介し、使用責任者になること)

使用可能な部屋:小(8人)～大(224人)計9部屋  
 使用料、予約の仕方等の問い合わせ先:  
 プラザ事務局(TEL:092-831-8104, FAX:092-831-8105)、  
 又は九州大学総務部研究協力課(092-642-4310)



## 各種証明書の入手、資格関係の問い合わせについて

卒業された方から証明書請求や教職について  
 の問い合わせが少なくありません。理学部  
 便りの紙面をいただいでこれらのことについ  
 てお願いと問い合わせについての情報提供を  
 させていただきます。

### 証明書は申し込んだその日や翌日には 交付できない!!

通常、各種証明書は3日間、英文による証明書のと  
 きは1週間程度の作成期間を要します。証明書が必要  
 なときは早めにお申し込みくださるようお願い  
 します。

### 遠隔地からの証明書の入手は?

作成した証明書は直接取りにこられるか、又は郵送  
 という方法になります。この場合郵送料金は証明書  
 請求者の実費負担となりますので郵送料金相当の  
 郵便切手を貼った返信用封筒を同封して請求して  
 ください。

### 請求に当たってのお願い

郵便で証明書を請求される時次のことを必ず記  
 載してください。

- 卒業年次
  - 卒業学科
  - 氏名
  - 請求証明書の種別
  - 必要部数
- (英文証明書の場合は請求者の氏名をアルファベットで  
 記載してください。)

### 資格関係についての問い合わせ

圧倒的に多いのが教職についての問い合わせです。  
 卒業生の方が新たに教職の取得を目指すのは率直に  
 言ってかなり困難だといえます。しかしながら、どう  
 してもという場合は、在学時に取得した「教職に関す  
 る科目」及び「教科に関する科目」を現行の教育職員  
 免許法に規定する科目に読み替えることができます  
 ので「高校一種」であれば取得は可能ではないかと思  
 います。

ただし、「中学校一種」の場合は、平成11年入学者まで  
 は「教職に関する科目」を19単位取得することとな  
 っていましたが、免許法改定により平成12年入学者か  
 ら九大では「教職に関する科目」を32単位取得しな  
 ければならないこととなっています。卒業生が新たに  
 免許を取得するときはこの改正法が適用されること  
 となります。

さらに、「介護等体験」が7日間必要となりましたので、  
 たとえ「教科に関する科目」が全て揃っていたとして  
 も「中学校一種」取得については厳しいのが現状です。

### 理学部のことについて知りたい

「理学部のことについて知りたい」という問い合わせ  
 も結構あります。理学部では高校生などに理学部を  
 知ってもらうために学部紹介パンフレット「Science  
 へのいざない」を作成し、希望者に配布しています。(こ  
 れも郵送の場合は送料請求者負担となります。悪し  
 からず)  
 ホームページ<http://www.science.scc.kyushu-u.ac.jp>

## 平成15年度学年暦

平成15年度の九州大学及び理学部の学年暦を紹介  
 します。下記の日程は九州大学の学年暦ですが、青  
 字は理学部の日程です。

卒業生の皆様が生徒生活を過ごされた日程と大き  
 く変わっているのは、夏休みの期間及び前期試験の  
 時期ではないでしょうか。

理学部では平成15年度から7月中旬まで授業を行い、  
 下旬にかけて前期定期試験を実施、8月から9月まで  
 を夏季休業とすることにしました。

永らく続いた7月11日～9月10日までを夏季休業  
 とし、夏季休業終了後1週間程度授業を行い、前期試  
 験が実施されるという日程は幕を閉じることとなり  
 ます。

このように前期授業に連続して試験を実施し夏季  
 休業にはいる学事日程は、文科系、六本松でも平成  
 15年から実施されることとなっています。

前期授業(理)	4月14日(月)～7月18日(金)
夏季休業(九大学年暦)	7月11日(金)～9月10日(水)
夏季休業(理)	8月2日(土)～10月2日(木)
後学期授業(理)	10月3日(金)～2月3日(火)
後学期授業開始	10月14日(火)
冬季休業	12月26日(金)～1月7日(水)
冬季休業(理)	12月26日(金)～1月6日(火)
卒業式	3月25日(木)

### 編集後記

九州大学は、ここ数年間激動の中にあり、今後も  
 法人化や元岡移転などでしばらくは大きな組織変  
 化が続くことが確実です。このような激動の中で、  
 九州大学理学部を卒業された方々に、理学部の現  
 況をお伝えし、今後とも九州大学理学部へのご理  
 解とご指導ご鞭撻をお願いするために、理学部便  
 りを発行することになりました。編集委員が不慣  
 れで、意を尽くせない面が多々ありますが、今後皆  
 様のご意見を反映させてより良い紙面にしたいと  
 思います。

## 同窓生通信の記事を募集しています。

次号より同窓生通信欄を拡充する予定です。皆様からのお便りをお待ちしています。  
 記事と写真(あれば)あわせて200字程度。  
 記事に関する問い合わせ:送付先:  
 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部等事務部庶務掛  
 TEL:092-642-2521, FAX:092-642-2522

